極真への道

第１号

（青野川東道場責任者・戸田代表・槇東予道場責任者・松本大洲教室責任者）

国際空手道連盟　社団法人　極真会館　愛媛県戸田道場　機関誌

All Japan Kykushin Union

「新たな道を突き進む」

国際空手道連盟　社団法人　極真会館　愛媛県戸田道場
代表　戸田美智男

会員の皆様と共に昨年5月から新たな組織に加盟し、新しい一歩を踏み出しました。

スタート時は潮見道場、県警極真空手部、大洲警察署空手教室の3つの道場でしたが、3カ月後に東予道場と川東道場が加わり、5つの道場となりましたが小さな組織であることは変わりません。

ついて来ていただいた会員の皆様に感謝するとともに、今後は各道場の責任者の方々と一緒になり、しつかりとした組織運営をしていく覚悟です。

私と空手の出会いは高校1年生で地元の剛柔流の道場に入門して以来で、大学空手部時代に、キャプテンとして当時の極真会館愛媛支部長の故芦原英幸先生に厳しく指導していただき、極真空手の強さを身をもつて知ったのでした。

芦原先生の指示で、ディスコ(今のクラブ)やキャバレーの用心棒(ガードマン)を卒業まで行い、店では暴力団やチンピラとのトラブルが多く、それが犯罪から人々を守る警察官、そして刑事を目指した理由の一つになりました。

県警に入つてからも、赴任した警察署全てで空手部を作り、その後県警空手部、大洲署少年教室、警察学校空手部、そして潮見道場と指導の場所を広げてきました。

今、考えれば、刑事という職業柄、職場からの呼出しも多く、休みも少ない厳しい仕事の中で、よくぞ空手を続けられたものだと我ながら感心しています。

これもひとえに極真空手が好きだという一言に尽きるのだと思います。また、妻や娘夫婦、義妹の家族、大洲教室の松本和彦先生や県警の多くの仲間、会員、保護者の皆様の支援のお陰であると深く感謝しております。

極真空手をやっていたからこそ、苦しい仕事も頑張れたのだと思っています。新たな組織を立ち上げた今、営利目的ではなく極真空手を広げて強い選手を育て、栄えある闘いの舞台を作ることを目標に、後ろを振り向かず歩んでまいります。

私と一緒にやってよかったという組織作りを行いたいと思っていますので、引き続きご支援、ご理解のほどよろしくお願い致します。

戸田美智男代表略歴
前大洲警察署長・愛媛県警察本部刑事部参事官
剛柔流県大会優勝 全国大会組手一般の部準優勝
松山商科大学(現松山大学)空手部第 25 代主将、4 段

世界大会観戦記

戸田美智男代表

平成24年11月10日(土)、11日(日)の2日間、社団法人極真会館理事長である小井戸泰三師範の地元である、富山市総合体育館で行われた第3回極真連合杯世界空手道選手権大会に行ってきました。

本来は、私は前日の9日に行われた審判説明会、ウェルカムパーティにも出席すべきところですが、仕事の関係で行けず開催初日に会場に向かったのでした。

松山から富山への直行便がないので、羽田空港で富山空港便に乗り換え会場に着いたころには既に午後3時を回っていました。

小井理事長や香川県の桑島師範等に挨拶をして席についた時に、潮見道場の作道泰二さんも到着したところで、 JRで実に8時間もかかったとのことでした。70歳を超えながら剣道7段という剣の達人のタフさに驚きました。

香川や徳島からは選手が出場していることもあって、大勢の道場生が応援に来ていました。

会場は5千人の収容能力があるという大きな体育館で、想像以上立派な施設でした。

選手は45カ国から参加しており、男子無差別は111人、女子軽量級、重量級で47人が参加しており、私が着いた時は男子無差別の試合の最中で1本勝ちが連続的にあり会場は大いに沸いていました。

その中で、昨年の全日本ウェイト制大会軽量級で現役高校生でありながら優勝し、卒業後白蓮会館に所属し今年も優勝が期待されていた福地勇人選手が、スペイン選手に顔面反則を受けて満身創痍のなか健闘していましたが、中段回し蹴りにより一本負けしたのが衝撃的でした。また、アフリカの選手が出ると奇妙な歌声のような雄叫びをあげたり、日本人選手と外国人選手が闘う際は外国人の声援がすごく、さすが国際色豊かな世界大会だと思いました。

男子は2回戦、女子は軽量級、重量級ともに1回戦で終わり、日本人選手は男子がベスト16のうち半分の8人、女子軽量級、重量級ともにベスト8のうち4人が残りました。

社団法人極真会館の大会は他流派の出場が許されるオープントーナメント方式であり、世界大会にも日本の大会で入賞した選手は、どの流派であろうと出場でき、日本の代表としての誇りを持って闘っていました。

二日目は、高校生ブラスバンドの演奏で入場式が始まり、開会式の後、ベスト16に入った男子のみ板の試し割りが行われました。

試し割りは、極真空手の大会での特徴あるルールで、正拳、足刀、手刀、肘打ちで行い、割れた枚数の合計を競うものです。組み手試合での本戦後、引き分けの場合は、再試合2回を行います。その後、判定がつかなかった場合、10キロ以上の体重差があれば体重の軽い

方の勝ちですが、差がない場合はこの試し割りの枚数の多い方の勝ちとなるのです。実力が均衡している場合、意外に引き分けが続き試し割りで勝敗が着くことが多く、非常に重要なものなのです。

試合は、Aブロックがスペインのジョナタン・ティネオ選手が沖縄道場の照屋彰人選手を下突きと下段回し蹴りの合わせ技1本で勝ち、Bブロックではスウェーデンのケビン・ウイクランド選手と日本の白蓮会館の山口輝大選手の闘いは判定を巡って30分以上紛糾し、試合が中断となりました。

山口選手側が執拗に抗議したこともあって、再々試合を行うことになり、結果5-0でケビン選手が勝利を得て会場は拍手と歓声に包まれました。

Cブロックは日本の極真佐藤道場の佐藤賢選手と極真関西本部の芦高侑平選手の闘いになるところでしたが、佐藤選手が前の試合で韓国のキム・ジョンギルの顔面殴打の反則を受け、負傷が大きくドクターストップとなったため不戦勝となりました。

Dブロックもスペインのジョナタン・カルドノ選手と日本の纐纈卓真選手の闘いの予定がジョナタン選手が前の試合で腕を骨折しておりドクターストップとなり、これも不戦勝となりました。

準決勝1試合目は、スペインのジョナタン・ティネオ選手とスウェーデンのケビン・ウイクランド選手の試合であつたが、全試合で死力を尽くして闘ったケビン選手に疲れの様子が見え、ジョナタン選手の下段回し蹴り2本の併せ1本勝ちとなった。

準決勝2試合目は日本人選手同士の芦高と纐纈選手の試合であつたが、激しく技を出し続けた纐纈選手が5-0の大差で判定勝ちとなりました。

女子軽量級の決勝戦は日本の増山愛理とオランダのカナン・ヨルマス選手の試合となり、再々試合で3-2の僅差で増山選手が勝利を得たのでした。女子重量級は、香川県桑島道場の佐々山郁美選手と他流派の吉村圭選手の日本人同士の対決でしたが、吉村選手の激しい攻撃の前に４－０で佐々木選手は敗れ去ったのでした。その後、少年部の演武、小井理事長による氷柱5本を下段廻り蹴りによる試し割りが行われ、いよいよ男子無差別決勝戦が行われたのです。

纐纈卓真　選手（左）　　　　ジョナサン・ティネオ　選手（右・スペイン）

スペインのジョナタン選手と日本の纐纈選手の決勝戦での戦い闘いは伯仲し、本戦、再試合2回を終えても勝敗がつかず、体重判定となりましたが4キロしか差がなく、最終の試し割り判定となリジョナタン選手16枚、纐纈選手17枚の結果で、1枚の差で日本が優勝を守り切ることとなったのでした。

満杯状態の会場は、二人の熱戦に対して万雷の拍手歓声が鳴り響きわたりました。私は翌日の100人程の世界の師範が集まった世界総会に参加した後、激しい戦いの結果全てのカテゴリーにおいて日本人が優勝した感激を胸に、少し興奮しながら松山への帰路につきました。

以 上

道　場　紹　介

シリーズ1回目

新居浜川東道場 責任者 青野大輔　2段

空手＝怖い。「野蛮」「痛いだけ」等の偏見や先入観があり、子供には学習塾などに時間や情熱を注ぐ事はあっても、なかなか空手に対する時間や情熱までは持たれていないのが現状です。

実際、厳しいだけの稽古ではせっかく身につきだしても、なかなか継続できません。

そこで、新居浜川東道場では「楽しくないと空手じゃない」をモットーに、いろいろなイベントや厳しい中にも楽しめる稽古を取り入れ、元気で明るく何事にも前向きに取り組むことを重視し、人をいたわること、挨拶の大切さ、そして何より仲間の大切さを心がけ、日々元気よく稽古しています。

昨今の社会情勢を鑑みますと、上記に加えて、ふりかかる火の粉は自分ではらえる勇気もみにつけていきたいものです。

新居浜川東道場の道場生達

突き・蹴りの応酬！

第14回大洲少年空手道大会

極真空手を学ぶ小中学生を集めた「ヤング3S運動 大洲少年空手道大会」が、平成24年3月11日(日)大洲市総合体育館で開催され、県内33の道場から約280人が出場しました。

県警極真空手部と大洲署空手教室が運営する大会で、戸田美智男大洲署長が「1年前の東日本大震災では1567人の子供が親を亡くした。大会に出られる環境、命に感謝して欲しい」とあいさつ。児童、生徒達は型試合や道場対抗の団体戦、学年別の個人戦を行い、突き、蹴りの応酬で熱戦を展開しました。

閉会式の様子

新しいスタイルの昇級審査

平成24年5月27日(日)に伊予警察署武道場で1回目の昇級審査が行われ潮見道場、大洲教室、県警空手部から合計14人が受審しました。さらに、同年9月30日(日)に松山市中央公園坊ちゃん球場スポーツプロアで2回目の審査があり、新たに加わった東予道場、川東道場を含め25人の受審者がありました。

戸田代表から審査前に「審査を受けるためには、しつかりとした準備をして確実にやりとげるという気持ちが大切です。必死の心でやれば、火事場の馬鹿力とも言うべきすごい力が起きますから、頑張って下さい」と挨拶がありました。

今回からは、型を2種類、体力審査では柔軟を見るために開脚前傾が行われ、さらに少年部の組み手は３０秒から１分間に延長されました。

人数が少ない分、1人1人丁寧に技を見ることができ、細かい指導がされ、あたかも稽古のような雰囲気の昇級審査でした。

審査結果

（平成24年5月27日）

少年部

10級 水沼優果(大洲)、水沼心栄(大洲)
9級 松本玲恩(大洲)、福井天翔(大洲)
8級 近藤さやの(潮見)
6級、宮園圭人(潮見)
3級 松田柚輝(潮見)

一般の部

10級 阿部拓実(大洲)
8級 丹下英人(県警)
7級 森脇裕哉(潮見)
3級 西部優作(潮見)
2級 山岡由弦(大洲)、坂本涼太(潮見)
1級 仙井俊明(大洲)

（平成24年9月30日）

少年部

10級 藤本一輝(川東)、一色駿颯、林建策(潮見)

9級 久保晴輝(大洲)高瀬晴(東予)

8級 池川晃太(川東)、真鍋武琉(川東)、天野佑優(潮見)、岩井玲樹(潮見)

7級　村上彪人(川東)、曽我部彩葵(川東)、渡部永久(川東)

6級 仙波隼(潮見)、久保忠哉(潮見)

5級、白鳥光希(川東)

4級 一色陽太(東予)、仙波晃(潮見)

3級 一色青空

一般の部

9級 鳥谷伸(潮見)

7級 藤原翼(東予)

6級 名田周平(潮見)

5級 菊池暢智(東予)

1級 杉野弘昭(潮見)、高津信二(川東)

平成24年第2回愛媛県警空手部合同稽古

　平成24年7月29日（日）に潮見道場において、今年2回目の県警極真空手部の合同稽古が行われ、遠くは新居浜警察署、大洲警察署から多数の部員が集まり、猛暑の中熱心に稽古を行いました。

　犯罪者からの抵抗を制圧するために、廻し受けによる巻き込み投げや、顎を上げて倒す裏投げを繰り返し行いました。

　警察官は自分の身や、市民の安全を守る立場から、一般会員以上に実戦的な技を取得する必要があり、今後も合同稽古を継続する予定です。

　稽古終了後は、潮見道場の会員、保護者との懇親会に参加して楽しい時を過ごしました。

県警空手部の面々

潮見道場で夏の懇親会

平成24年7月29日(日)に潮見道場では、県警極真空手部と合同で、松山市中央 パスタ工房アルボーレ中央店において恒例の夏の懇親会を開催しました。

今回は家族連れも多く、45人の参加があり、大いに盛り上がりました。

会員の「絆」を強める行事を今後も開催する予定です。

厳しくも楽しかった夏合宿

平成24年8月25日(土)・26日(日)の両日、大洲青少年交流の家で、新しい組織になって初めての夏合宿を開催いたしました。

合宿には、5つの道場から59人の会員が参加し、1日目は戸田代表の指導による投げとヌンチャクの稽古、終了後は黒帯と来年昇段審査受審希望者が「突きの型・三戦・最破」の型を稽古しました。夜は、全員でリラックスルームに集まって懇親会を行い、 少年部はトランプゲームに興じ、一般部はお酒を酌み交わし胸襟を開いて絆を深めることができました。

2日目の早朝にはミット稽古と、ステップ稽古を繰り返して行い組手試合に備え、朝食終了後、バスで肱川河原に移動し、空高く上げたスイカを貫手で割ったり、川に膝まで浸かり基本技を参加者全員が順番で号令をかけて、自然の中での稽古を満喫しました。

稽古の合間に、少年部がタオルで目隠しをして棒でスイカ割りを行ったが、なかなか割れず割れた時は歓声が川岸に響き渡りました。

ヌンチャク稽古や懇親会、そして肱川河原でのスイカ割りなど、厳しい中にも楽しいことも多く、帰宅に就く子供達は「楽しかった。次も参加したい。」と口々に話していました。

基本５００本

河原での稽古をやり遂げた参加者

部内交流大会開催

平成24年11月4日（日）に坊ちゃん球場スポーツフロアにおいて、社団法人極真会館愛媛県戸田道場部内交流大会が開催されました。開催前には黒帯対象で審判講習会を実施され、全員が審判技術向上のために熱心に取り組みました。開会式では、川東道場の青野責任者が叩く開会太鼓が鳴り響き、選手に気合いが入った様子が伺えました。

戸田代表が「この大会は、我々は今後他流派と闘っていく方針ですので、他流派に負けないよう自分の技の良い所、悪い所を知りこれからの試合に活かしてほしいと考え開催しました。どうか全力で頑張って下さい。」と挨拶を行い今後の奮起を促しました。

午前中は一般初級、上級、少年初級、上級の4階級に分かれ型演武を競い、一般初級の部は入門半年の潮見道場の烏谷伸選手が力強い大極Iを行い、上級は70歳を過ぎた潮見道場の作道泰二選手が気を感じさせる「三戦」を演武し1位となりました。

少年部初級は東予道場の高瀬晴選手が緩急を使った「太極Ⅲ」を行い、上級は潮見道場の藤堂選手が「突きの型」を稽古の成果を発揮して1位となりました。

午後はそれぞれのカテゴリーによって組み手試合を行い、今回は他の大会に準じてボディプロテクターを着けないルールで実施しました。

試合は8人と出場者が多かった小学2年の部では東予道場の高瀬選手がパワー全開で型に続いて1位となり、10人と最も参加の多かった小学3・4年の部では女子ながら潮見道場の近藤さやの選手が力強い戦いで勝ちあがり、決勝で同門の仙波隼選手から中段回し蹴りで技ありを奪い1位となりました。なお、大会ドクターとして愛媛大学付属病院の藤本医師に対応していただき、不測の事態に備えることができました。

試合が終わって、ほっとしている道場生達

大会結果

型の部

一般初級	1位 鳥谷伸(潮見)
一般上級	1位 作道泰二(潮見) 2位 仙井俊明(大洲)3位 伊藤 (東予)
少年初級	1位 高瀬晴(東予)2位 天野佑優(潮見)3位 久保晴輝(大洲)
	4位 林健作(潮見)5位 近藤さやの(潮見)
少年上級	1位 藤堂巡(潮見)2位 堀井強吾(潮見)3位 一色青空(東予)

組手の部

小学1年生(男女混合)	1位 久保幸輝(大洲)2位 福井龍閃(大洲)
小学2年生(男女混合)	1位 高瀬晴(東予)2位 矢野佑弥(川東)
小学3・4年生(男女混合)	1位 近藤さやの(潮見) 2位 仙波隼(潮見)
小学4.5年生(女子)	1位 岩井玲樹(潮見)
小学5年生(男子)	1位一色陽太(東予)
小学6年生(男子)	1位松田柚輝(潮見)
小学6年生(女子)	1位 一色青空(東予)
中学生	1位 伊藤(川東)
一般	1位 藤原翼(東予)

志賀賢一選手

香川県大会・拳武道全日本選手権大会ともに三位入賞

過去、極真会館松井派の全四国大会で優勝経験のある志賀賢一2段は、あくなきチャレンジ精神で平成24年8月12日に高松市西部運動センター体育館で行われた第17回香川県大会、同年10月28日に新居浜市の新居浜市市民体育館で開催された拳武道会館主催の第30回ウエィト制全日本選手権大会に連続出場し、いずれも3位入賞を果たしました。

香川県大会は、本年から愛媛県戸田道場が加盟した社団法人極真会館(全日本極真連合会)と組織を同じくし、元全日本チャンピオンの桑島靖寛師範が率いる香川県桑島道場が主催する無差別の大会で、強豪選手が多数出場していました。

志賀選手は、久しぶりの大会出場でしたが、1回戦を難なく突破、2回戦でも桑島師範のご子息で警察官の桑島康彰選手を判定で破り迎えた準決勝、岡山の18歳の若手のホープ、三宅伸選手に判定で敗れ3位となりました。

その２ヶ月後には全日本拳武道選手権大会に出場しました。本大会を主催する拳武道会館は、極真会館全日本大会で上位入賞を果たし、大山総裁から「風格ある空手家」と称賛された田中正文館長が率いる流派であり、本大会は長い歴史を有しており、数々の名選手を輩出している有名な大会です。

志賀選手は重量級にエントリーし初の他流派の大会出場で、若干緊張した面持ちではありましたが、初戦、白蓮会館の若手のホープ、16歳の元部秀吉選手を圧倒して判定勝ちしました。

しかし、この戦いで右拳を骨折するという怪我を負ってしまい、準決勝の昨年優勝者の道真会館の18歳山下力也選手の前に判定負けを喫し3位となりました。志賀選手が勇気を持って他組織の大会に出場したことにより、若い力があふれる他流派が存在することが分かり、「井の中の蛙」であってはいけないことが確認できました。

志賀選手は、いずれの大会も後僅かで優勝を逃しましたが、ブランクを超えての入賞は賞賛に値するものであり、戸田道場のエースとして今後の活躍が期待されます。

左から、田中正文館長、志賀賢一選手、槇龍次東予道場責任者